

「知恵のみちを歩み 人と世界に奉仕する」人に

2023年4月1日 入学式 学長式辞

Sunshin University

長崎純心大学は、「豊かな人間性と高い専門的能力を備えた人間教育」を使命とする大学です。「知恵のみちを歩み 人と世界に奉仕する」というモットーを掲げています。

大学教育には「知識の伝達」と学修者の「人間的な成長」を助けるという二つの目的があるとされています。大学生だからこそ得られる溢れるほどの「知識」。しかし大学で目指すのはそれだけでは足りません。「知識」を「知恵」へと深めることが必要です。

純心女子学園の初代学園長シスター江角ヤスは、「聖母マリアのように神と人々に喜ばれる人間にならなさい」と教えられました。「知恵」は、神と人々に喜ばれる人間になるために何をすればよいのかを見分ける力、判断力であり、喜びは愛の奉仕という行動から生まれます。

「マリア様 いやなことはわたくしがよるこんで」という、幼稚園、中学校、高校、大学、大学院までに共通した学園標語があります。この標語は、大学のモットーの具体的実践を教えます。見て見ぬふりをして通り過ぎることもできることを、気付いた私が見逃さず実践するならば、



他の人も私自身も平和な嬉しい気持ちになれます。「知識」を「知恵」に深めながら、人の喜びとなる奉仕のみちを歩む積極的な姿勢が学園標語には込められています。

さらに、長崎純心大学は世界に向けて平和の大切さを発信していく使命も託されています。本学は、長崎の深い歴史が刻まれた「恵の丘」に佇む長崎唯一のカトリック大学です。

戦時中、三ツ山に学園の開墾地があり、1945年8月9日、非番のシスターたちが来ていました。投下された原子爆弾の閃光、爆風、飛んできた純女学徒隊名簿の破片。異変を察したシスターたちは走り戻り、生徒たちの救出に奔走しました。工場に学徒動員されていた214名の生徒、教員が亡くなりました。戦後、「あの子たちが喜んでくれるのなら」と江角ヤスは学園の再興を決意したのです。そして、亡くなった生徒たちのご両親をお世話したいと、長崎原爆ホームを開設しました。それらは、計り知れない神の恵みによるものでした。そのことを感謝し、「この一帯を「恵の丘」と呼ぶことにしました。純心教育の使命と

して、「いのちを学び、いのちへの奉仕」を目指す原点はここにあります。

2022年7月、日本を公式訪問したドイツ連邦共和国のベアボック外務大臣は、「最初の訪問地として被爆地長崎を選び、本学学生との対話の集いを希望されました。対話の始まりは「核兵器のない世界に向かっているために、私たちは皆さんから何を学ぶことができますか」という大臣からの問いでした。被爆地で創立され、被爆の犠牲の中で再興した学園で学ぶ学生の発言に身を乗り出して聞いてくださったベアボック大臣。その大臣から後日届いた礼状では、本学を「平和を託された大学」と表現してありました。

「恵の丘」で学ぶことは、被爆の実相と被爆者の思いを継承し、いのちの尊さと平和への祈りを世界へ、後世へ発信していく責務を負っているということです。「知恵のみちを歩み 人と世界に奉仕する」人となるように、勉学に励み友情を育んでください。純心で学んでよかつたと言って卒業できる学生を送ることができるよう、「恵の丘」に通う日々が神様と人々から祝福されることを祈ります。